

うむい

令和7年度 皇紀2685年

題字：宮里 洋子（沖縄県護国神社前事務局長）
社報「うむい」について

沖縄の言葉で「想い、願望、考え、所存」のことを「ウムイー」といい、戦争で亡くなっていった人達の思い、そして残された遺族、戦友達の想いを次の世代へと継承すべくつけられた名前。

日清戦争以後、敢然と国難に立ち向かっていった先人たちの尊い精神が、この「うむい」を通して末代まで受け継がれ、真に戦争の無い平和な世の中になるようにとの願いが込められている。



慶良間諸島阿嘉島（あかじま） 昭和20年3月26日8時4分、この島に米軍が上陸した事により沖縄における地上戦が始まる。

御挨拶 代表役員（会長）比嘉 良雄

特集 沖縄県護国神社の歩み

第9回「社殿造営奉賛金募集活動」

宮司 加治 順人

戦後80年を迎えるにあたり

各種行事報告

戦後80年特集

「本土に残る沖縄戦の記憶」

御祭神の遺籍調査

令和6年度書評



啓示

代表役員会長 比嘉良雄

灰燼にきした沖縄県護国神社の再建につくされた具志堅宗精翁の墓前にぬかついた。寒緋桜が満開。春を予感する二月四日、立春の日の暮れである。

「あなたがたがお造りになった護国神社の本殿は六十余年の歳月を経て痛み、改修、改築の時期を迎えている。私は今会長としてその大業を推進しなければならぬ立場である。だが高齢という壁が立ちはだかっている。耳、目、足、そして記憶力。判断力があやしくなってきた。運転免許証も返納した。数え年は今年九十歳。あなたが鬼籍に入られた年齢よりも五年余も生かされている。……」一心に祈った。

それから十日、心の整理がついた。それは次のようなことであった。

(一) 今期で会長を辞す。

(二) 当時の具志堅会長の寄付額一千ドル相当の金子を寄付金第一号として贈呈する。

(三) その金額は五百万円。

(四) 令和七年五月三十一日、退任の日に実施。

啓示の結果である。合掌！



スポーツ振興に尽力する比嘉会長
中央は出雲駅伝、全日本駅伝の連覇を達成した
國學院大學陸上競技部上原琉翔主将(県立北山高校出身)



祭文を読み上げる比嘉会長

沖縄戦 全戦歿者慰霊祭

沖縄戦において組織的抵抗が終結したとされる六月二十三日に沖縄戦全戦歿者慰霊祭を斎行いたしました。正午に黙禱を捧げ、その後国歌斉唱、宮司祝詞奏上、神職による「みたま慰めの舞」の奉奏と滞りなく祭典を執り行うことができました。本年は昨年を大幅に上回る百二十名の方にご参列をいただきました。



多くの参列者が集う拝殿

第六十六回 春季例大祭

四月二十三日第六十六回春季例大祭を斎行いたしました。まず祭典に先立つ宵宮祭において新たに氏名が判明した一柱の祭神の霊璽簿を本殿に奉安いたしました。又、例大祭当日には当社に篤い崇敬心をお寄せいただく(株)コーニッシュより米俵三俵と清酒の奉納がございました。祭典中には華道家元池坊沖縄支部による献華の儀、茶道裏千家淡交会沖縄支部による御奉茶の儀がそれぞれ執り行われました。その後「あゝ特攻」勇士之像前にて慰霊祭が執り行われました。



宮司祝詞奏上



直会は神人共食の場



照屋大祭委員長祭文を奏上す

の世代へと継承しお慰め申し上げていくことがご英霊に報いる道であり、それこそが護国神社の使命と考えております。」の一文に多くの方が共感すると共に決意を新たにいたしました。

第六十六回秋季例大祭

秋晴れの十月二十三日、第六十六回秋季例大祭を斎行いたしました。清興において芸能「田場盛信民謡ショー」が開催されると多くの方が喜ばれていました。又、MOA山月光輪花が献華の儀を、無外流明思会岩品銃峰氏が居合奉納演武をそれぞれ執り行い大祭に華を添えました。祭典中に照屋苗子大祭委員長より祭文の奏上が行われましたが、その中にありました、「かけがえない尊い命を捧げたご英霊とそこご遺族の思いを決して忘れることなく記憶し、次の世代へと継承しお慰め申し上げていくことがご英霊に報いる道であり、それこそが護国神社の使命と考えております。」の一文に多くの方が共感すると共に決意を新たにいたしました。

終戦記念日みたま祭り

大東亜戦争終結ノ詔書が下されてより七十九年の歳月が過ぎました。当社では英霊にこたえる会沖縄県本部協賛また、沖縄県遺族連合会、日本会議沖縄県本部の後援により終戦記念日みたま祭りを斎行いたしました。畏くも天皇陛下下よりのおことばをラヂオを通して拝聴し、正午の時報に合わせ上下心を一にして先の大戦にて靖國・護國の宮へ旅立たれた御霊に對し黙とうを捧げました。

今年のは先の大戦が終結し八十年となります。沖縄戦により護国神社は一部崩壊し、更に戦後の混乱に因り荒廃し、神社としての様相は大きく変貌していました。

その様な状況の下、昭和三十年代初頭から、県内の遺族や戦争経験者より神社復興の声が高まってきました。

そこで今回の「護国神社のあゆみ」では、「社殿造営奉賛金募集活動」と題して、社殿再建までのあゆみを記したいと思います。

護国神社の戦後は、昭和三十四年四月に、有志の手によって集められた奉賛金により仮社殿が建立されたのが始まりである。

同年四月に戦後第一回の例大祭が斎行され、本格的な社殿造営へと機運が高まっていた。

そこで昭和三十七年二月に「沖縄県護国神社復興期成会」が結成され、会長に具志堅宗精（オリオンビール(株)創業者）、副会長に長嶺秋夫（琉球政府立法院議長）、山城篤男（沖縄群島政府副知事）がそれぞれ就任した。

その主となる活動は、那覇市の所有となっていた境内地の返還と県内外への奉賛金募集活動であった。そこで具

志堅会長は那覇市へ敷地返還を陳情し、同年六月に那覇市市議会本会議にて返還陳情が採択された。

奉賛金の募集については、総工費七万六千ドル（約二千七百万円）に対し、具志堅会長自らが代表を務める琉鵬会（オリオンビール(株)他関連会社）より、総工費の約半分にあたる三万三千ドル（千八百八十八万円）が奉納さ

於いて、沖縄の全世帯に対し五セントの分担協力案が可決し即実施され、奉賛が市町村単位で寄せられることになった。さらに沖縄教職員会会長屋良朝苗（復帰後の初代県知事）と事務局長喜屋武真栄（復帰後の参議院議員）の働きかけで、「全琉一セント募金」として県内すべての小中学校児童生徒に対し募金するよう呼びかけられ、学

特集

■ 沖縄県護国神社の歩み

第九回 社殿造営奉賛金募集活動

宮司 加治順人

れ、具志堅会長個人からも千ドルが奉納された。

また、県内遺族の他に県内企業や金融機関、医療関係者、県外企業の沖縄事務所へも呼びかけ、更に那覇市内の個人商店、個人宅へも復興期成会の職員が戸別訪問し、募金を呼びかけたところ、予想以上の奉賛金が寄せられた。特筆すべきは、沖縄市町村会総会に

沖縄県護国神社は昭和11年の創建から数え、今年で88年目を迎えます。特集「沖縄県護国神社の歩み」と題し、11回にわたって神社の創建から現在までを紹介していきます。

校単位で募金が行われた。

県外へは、元靖國神社奉賛会事務総長で福岡県知事を務めた岩重隆治氏と靖國神社池田良八権宮司が世話人となり、全国知事会へ復興援助を依頼し、池田隼人総理大臣へも沖縄の事情を説明し援助を依頼した。そして昭和三十八年四月に具志堅会長が上京し各方面へ援助を申し入れ、その甲斐もあり同

年七月全国知事会より一万五千二百九十ドルが寄せられた。

また、神社本庁や全国の神社関係者へも奉賛を依頼したところ、神社本庁より二千ドル、全国護国神社會から二百七十五ドルの奉賛金が寄せられた。

このように、護国神社社殿造営には、全国の知事や神社関係者、県内外の戦友や御遺族、各企業団体、そして沖縄県内ほぼ全ての方々から多くの奉賛が寄せられ、昭和三十八年八月に第一期工事（境内整備工事）が完工し、続く昭和三十九年七月第二期工事（本殿、拝殿）が開始され昭和四十年八月に竣工した。



復興が終わり多くの人で賑わう新社殿 出典：沖縄県立公文書館



昭和四十年社殿復興

高額奉賛者一覽



県内団体・法人

倉庫協会
 古堅兄弟社
 仲原組仲原竜雄
 諸見里酒造所
 沖繩タクシー協会
 那覇ロータリークラブ
 沖繩自動車販売協会
 金秀鉄工所
 沖繩製粉株式会社
 琉球石油株式会社
 オキコ株式会社
 沖繩山形屋
 株式会社リウボウ
 沖繩飼料株式会社
 共和タクシー
 第一被服工業株式会社
 オリエンタル煙草株式会社
 アメリカンフォートサービス株式会社
 比嘉電気工業
 ジランバヤー玉城亀助
 琉球海運株式会社
 沖繩煙草株式会社
 ゲンキ乳業株式会社
 南洋土建株式会社
 大洋堂時計店
 沖繩園芸農業組合
 球陽生コンクリート株式会社
 琉鵬会
 オリオンビール株式会社
 オリオンビール販売株式会社
 赤マルソウ合名会社
 琉球製油株式会社
 琉球アスファルト工業株式会社
 全琉球商事株式会社
 琉和商事株式会社
 琉和貿易株式会社
 琉球銀行
 沖繩銀行
 中央相互銀行
 南陽相互銀行
 沖繩生命保険相互会社
 琉球生命保険相互会社
 琉球火災海上保険株式会社
 共和火災海上保険株式会社
 那覇市商工信用協同組合
 宮城仁四郎姉妹会
 大扇会
 善太郎組
 琉球分蜜糖工業会
 配電協会
 国場幸太郎関係会社
 ライト工務店

県外法人

ホテル日光(上岡賢次)
 香取荘 平良泰央
 沖繩皮革工芸社山内昌宏
 松本タイプ印刷所
 沖繩食糧株式会社
 琉球文教図書株式会社
 第一産業株式会社
 琉球ニッカウスキー株式会社
 沖繩商会
 ベストソーダ株式会社
 日乃出機械工業所
 沖繩旅行社
 有限会社琉球ボーラ化粧品本舗
 沖繩ホテル
 沖の島ホテル
 ホテル波の上荘
 沖繩貿易株式会社
 山田宝石店
 金環堂
 那覇会館
 料亭 松の下
 味の素沖繩事務所
 日本航空沖繩支店
 三井物産那覇事務所

県内個人等

三菱商事那覇駐在所
 住友商事那覇駐在所
 株式会社東食那覇事務所
 丸紅飯田株式会社那覇事務所

県内市町村

那覇市
 豊見城村
 糸満町
 東風平村
 具志頭村
 玉城村
 知念村
 佐敷村
 与那原村
 大里村
 南風原村
 石川市
 美里村
 与那城村
 勝連村
 具志川村
 コザ市
 読谷村
 嘉手納村
 北谷村
 北中城村
 中城村
 宜野湾市
 西原村
 浦添村
 国頭村
 大宜味村
 東村
 羽地村
 屋我地村
 今帰仁村
 上本部村
 本部町
 屋部村
 名護町
 恩納村
 久志村
 宜野座村
 金武村
 伊江村
 仲里村
 渡嘉敷村
 座間味村
 渡名喜村
 伊是名村
 高良小学校
 小禄小学校
 垣花小中学校
 城岳小学校(先生・生徒)
 開南小学校(六年生)
 久茂地小学校(六年生)
 若狭小学校
 前島小学校
 泊小学校
 壺屋小学校
 神原小学校
 真和志小学校
 大道小学校
 安謝小学校
 神原幼稚園
 小禄中学校
 古蔵中学校
 那覇中学校
 寄宮中学校
 仲西中学校
 北大東併置校
 仲里小学校
 比屋定併置校
 上田中学校
 座安小学校
 長嶺小学校
 豊見城中学校

県内小中学校

糸満南小学校
米須小学校
真壁小学校
兼城小学校
糸満中学校
具志頭小学校
東風平小学校
東風平中学校
南風原小学校
南風原中学校
大里南小学校
佐敷小学校
知念小学校
久高小中学校
知念中学校
玉城小学校
百名小学校
船越小学校
玉城中学校
渡名喜小中学校
座間味小中学校
阿嘉小中学校
慶留間小中学校
渡嘉敷小中学校
西原中学校
中城小学校
中城中学校
普天間中学校
北玉小学校
北谷中学校
宮城小中学校
平敷屋小学校
勝連小学校
津堅小中学校

美里小学校
美里中学校
美東中学校
北中城中学校
北中城小学校
美東小学校
安慶田小学校
渡慶次小学校
喜名小学校
古堅小学校
古堅中学校
天願小学校
兼原小学校
田場小学校
安富祖小中学校
喜瀬武原小中学校
嘉芸小中学校
金武小学校
中川小学校
金武中学校
かなな小学校
宜野座小学校
謝花小学校
田名分校
島尻分校
松田小学校
宜野座中学校
久辺小中学校
久志小中学校
三原小中学校
嘉陽小中学校
天仁屋小中学校
東小中学校
有銘小中学校

東江小学校
名護小学校
大宮小学校
瀬喜田小中学校
名護中学校
屋部小学校
安和小学校
屋部中学校
本部中学校
本部小学校
崎本部小中学校
瀬底小中学校
水納小中学校
伊豆味小中学校
伊野波小中学校
浜元小中学校
豊川小学校
新里小学校
今帰仁小学校
天底小学校
大宜味小中学校
喜如嘉小中学校
辺土名小学校
奥間小学校
兼次小中学校
湧川小中学校
今帰仁中学校
羽地小学校
真喜屋小中学校
稲田小学校
源河小中学校
羽地中学校
屋我地小学校
伊江小学校

西小学校
伊江中学校
伊平屋中学校
野甫小中学校
津波小中学校
塩屋小中学校
佐手小中学校
北国小中学校
奥小中学校
そ洲小中学校
安田小中学校
安波小中学校
高江小中学校
国頭中学校
屋我地中学校
平良第一小学校
西城小学校
砂川小学校
多良間小学校
池間小中学校
鏡原中学校
久松中学校
多良間中学校
登野城小学校
白保小学校
川原小学校
明石小学校
大原小学校
由布小学校
上地小学校
与那国小学校
比川小学校
富野小中学校
竹富小中学校

県外団体・個人

小浜小中学校
はとま小中学校
上原小中学校
西表小中学校
久部良小中学校
石垣中学校
伊良間中学校
白保中学校
大原中学校
平真小学校

靖国神社献華会
岩上友次郎
陸士五六期生会
解脱会
昭和工業所
大西一
鼠入静子
出光会
松本明重
北海道知事
石垣三吉
猪又徳次
岩倉朝治
五十風菊太郎
三重県知事
愛知県知事
玉田栄太郎

愛知県遺族青年部
藤岡豊子
群馬県慰霊塔建立期成会
岐阜県知事
宮城県知事
馬俊雄
愛媛県町村会
丸太三郎
熊本県知事
宮崎県青年議員連盟

『沖縄県護国神社の歩み』
より抜粋 掲載名・表記
については原文のママと
なります。



参拝者を助けるボーイスカウト
出典：沖縄県立公文書館

戦後八十年特集

■本土に残る沖縄戦の記憶

『うむい』では様々な号で県内における沖縄戦関係の戦跡の紹介をして参りました。今回は少し角度を変え、本土に残る沖縄戦の記憶を取り上げていきます。

皆様の中には沖縄戦の遺品や関係するものの多くが沖縄にあると思われる方もいらっしゃるかと存じます。しかしながら当社の御祭神が日本全国のご出身であるように、本土にも沖縄戦関係の遺品やゆかりの地が多く存在いたします。例えば、特攻隊が出撃した知覧や、鹿屋等の航空基地、或いはマルレの訓練地である江田島などが有名です。又陸戦関係ですと靖國神社遊就館のエントランス部分には沖縄戦で使用された野戦重砲がある他、各地で慰霊碑を拝する事が出来ます。今回は四月七日に起こりました坊ノ岬沖海戦の記憶を、その中でも市販の旅行雑誌にあまり掲載されていない戦跡や、ゆかりの品をご紹介します。

『坊ノ岬沖海戦 概略』

三月二十六日午前八時に米軍が慶良間諸島に上陸すると連合艦隊は「天一号作戦発動」を令した。又同日に石垣島出身の伊舎堂用久陸軍大尉（歿後中佐に特進）率いる誠第十七飛行隊が敵艦隊に対し特別攻撃を敢行するなど陸海軍の総力をあげての作戦行動が行われた。その中で帝国海軍は敵艦隊・敵陸上戦力を撃滅すべく戦艦大和以下十隻で編成された第一遊撃部隊の出撃を決定。四月六日、豊田副武連合艦隊司令長官は全軍に対し、

「帝国海軍部隊は陸軍と協力、空海陸の全力を挙げて沖縄島周辺の敵艦隊に対する総攻撃を決心せんとす。皇国の興廃は正に此の一挙に在り、茲に特に海上特攻隊を編成壯烈無比の突入作戦を命じたるは帝国海軍力を此の一戦に結集し、光輝ある帝国海軍海上部隊の伝統を发扬すると共に其の栄光を後昆に伝へんとするに外ならず各隊は其の特攻隊たる」と否とを問わず愈々殊死奮戦敵艦隊を随所に殲滅し以て皇国無窮の礎を確立すべし」

の電文を発した。その後、第一遊撃部隊は一億総特攻の魁として沖縄に向けて出撃。翌四月七日正午より始まった戦闘においては敵出撃攻撃機三七二機中実に五十数機に損害を与えるも（諸説あり）遂に戦艦大和、軽巡矢矧、駆逐艦浜風、磯風、朝霜、霞の六隻が千尋の海に沈み、残存駆逐艦初霜、雪風、涼月、冬月の四隻は佐世保に帰還する事となった。



残存駆逐艦のその後

「初霜」二水戦最後の旗艦

初霜は残存艦の中で一番損害が軽微であった為、海戦終了後、第二水雷戦隊の將旗が移され、三百名以上の生存者の救出を行いました。海戦後の四月二十日には初霜艦上で第二水雷戦隊の解隊式が行われ、ここに「華の二水戦」と謳われた栄光の第二水雷戦隊は名実ともに終焉を迎えました。その後は京都府宮津港にて本土決戦に備えるも七月三十日の宮津港空襲の際に触雷し大破。最後は完全なる沈没を防ぐため獅子崎にて擱座着底となりました。戦後初霜は解体されましたがその主錨は初霜の軍医長を務めていた山田正明氏がもらい受け、現在は東京都墨田区にある山田記念病院前に保存されています。



初霜の錨 (いかり)

「冬月・涼月」永久の月の絆

残存艦の中で涼月は満身創痍の状態であり、いつ沈んでもおかしくない状態でしたが奇跡的に佐世保に帰投を果たすことが出来ました。帰投の後に艦内捜索を行うと前方部の第一弾薬庫から三名の御遺体が発見されました。この三名は艦の沈没を防ぐため自らの退路を断ち第一弾薬庫を内部から閉鎖して防水処置を行ったのです。この防水処置を行った三柱のうち二柱のお名前が判明しています。一人は江藤虎蔵命。もうお一方は、國場勇命。その苗字からも分かるように沖繩にルーツを持つ方です。この他にも多くの将兵の挺身により涼月は生存者たちとともに帰投する事が出来ました。同じくこの海戦から生還した同型艦の冬月は「ワレ冬月、涼月何処ニアリヤ」と涼月救援の為自艦の位置が敵に発見される恐れがあるにも関わらず無電の電鍵を叩き続け、九州の各部隊に対し涼月の搜索と援護を要請しています。戦後この二隻は北九州の地において、日英同盟華やかしき頃の大正の御代に地中海

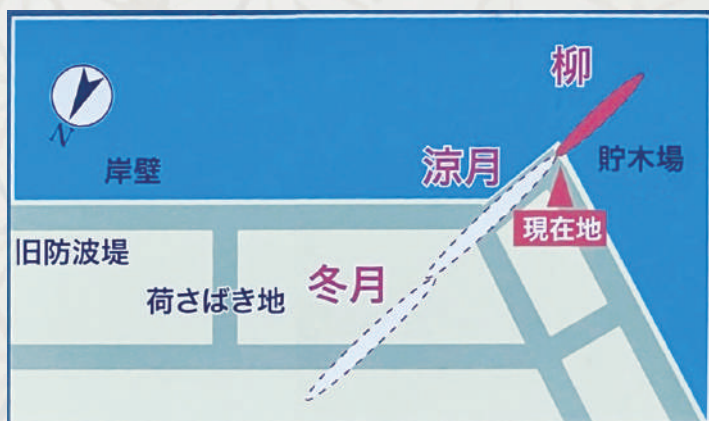
にて船団護衛を行った駆逐艦柳と共に港を波風から守る役目をもつ防波堤（通称軍艦防波堤）となり祖国復興の礎となりました。尚、那須戦争博物館には冬月の軍艦旗が保存されています。



柳より冬月、涼月を見る



日本海軍が建造した駆逐艦の中で唯一地上で姿を見る事が出来る駆逐艦柳



軍艦防波堤掲示板より (転載禁止)



冬月の軍艦旗 那須戦争博物館 (転載禁止)

【雪風】不死身の駆逐艦

駆逐艦雪風は大和沈没後も尚、沖縄突入を諦めませんでした。が、作戦が中止となると生存者六百名以上を救出し佐世保に帰投しました。その後は舞鶴にて初霜と共に本土決戦の為に温存され、終戦時も航行可能でした。終戦後は復員輸送船として一万三千名以上の将兵を本土に運びました。余談ですがこの中には水木しげる氏も含まれています。その後は戦時賠償艦として中華民国に引き渡され名を「丹陽」と変え昭和三十年代まで現役でした。我が国でも雪風の返還運動がありましたが、最後は台湾で解体されその生涯を終えました。尚、江田島の海上自衛隊第一術科学校（海軍兵学校）には昭和四十六年に返還された雪風の舵輪と艦内時計が教育参考館に、錨が屋外に保存されています。



雪風の錨

第一術科学校にはこの他に、戦艦大和ゆかりの品や、軽巡矢矧の高角双眼鏡が展示されている。



志賀（こじま）の錨

最後に坊ノ岬沖海戦に直接参戦はしていませんが、潜水艦から第一遊撃部隊を守る為の前路掃討を担当した海防艦志賀を紹介いたします。

【志賀】初陣で戦果をあげる
海防艦志賀は当時竣工直後であつた為、訓練隊に属していましたが、第一遊撃部隊の出撃が決まると僚艦や零式水偵と共に前路掃蕩を行い、敵潜水艦一隻を撃沈しました。『海防艦戦記』より。戦後は掃海艦、対馬海峡連絡船等を経て海上保安庁の巡視船こじまと名前を変え、昭和四十年に解役になるまで我が国の海上保安の一端を担いました。その後は千葉市に払い



志賀（こじま）の艦橋計器類



志賀（こじま）の舵 那須戦争博物館（転載禁止）

下げられ海洋公民館として余生を送っていました。が、平成十年に解体されました。現在では千葉市稲毛区の高洲スポーツセンターに錨と艦橋内部にあつた各種航海器具が、那須戦争博物館には艦首や舵が切り取られ保存されています。

陸戦の記憶というのは比較的容易に見ることが出来ます。又英霊の玉骨収集も進んでいるため、ご遺族に玉骨や遺品をお返しできる機会も増えてきています。しかしながら海原に沈む海戦の記憶を直接拝するのはなかなか難しい事でございます。今回紹介した艦艇は生還を果たした艦艇ですが、その艦上では将兵が散華し、姉妹艦の多くも海歿しています。又、これらの艦艇は多くの同胞を看取ってきた時代の証人でもあります。

メディアは印象に残る艦艇ばかり取り上げることが多いので、必然的に大型艦艇ばかり有名になります。しかしながら大型艦も小型艦艇も我が国の為尽くされた事実には変わりはありません。この記事がそのような艦艇を知っていただく、きっかけになれば幸甚に存じます。

最後になりますが、写真の掲載を快諾して頂きました、那須戦争博物館の皆様には深く感謝御礼申し上げます。

文責 権禰宜関口幹久

戦後八十年を迎えるにあたり



七五三 玉串拝礼



大晦日



餅つき (那覇市青年会議所主催)

拝殿から聞こえる神職の祝詞の声。絶える事の無い賽銭箱前での柏手の音、威勢のいい出店業者の呼び込みの声、幾重にも重なったみくじがサヤサヤと風に揺らぐ音、そして、そこかしこから聞こえる

笑い声。今年も当社は平穩無事にお正月を迎えることが出来ました。正月三が日での参拝者数は約二十七万人。これは統計を取るようになってから二番目に多い人数となりました。この二十七万人の内、多くの方が御祭神の子孫或いは地域・職業・学校などの後輩にあたられますので御祭神も可愛い御子孫・後輩の皆様が年の初めにまず護国神社にご挨拶にいらっしやいました事、大変お喜びの事とご拝察申し上げます。又その他の諸行事に目を移しますと好評を頂いている七五三無料着付けも増加、お正月の献灯も微増。さらに節分祭は日曜日ということも相まって例年の三倍以上の方にお集まり頂きました。恊に祝着の極みに存じます。しかしながらこれを手放しに喜べるかと言われ

国神社は安泰でしょう。しかしながら昭和四十年代には六千人以上の方が参拝になられた春秋の大祭の参列者は現在百二十名前後と五十分の一の程度になっています。又、最盛期(昭和五十年代)では年間三百六十件以上奉仕をすることがあった結婚式も現在では年間一件あるかないかという現状です。

かつて靖国神社第六代宮司松平永芳翁は平成元年に執り行われました秋季例大祭・御創立百二十年記念大祭・昭和大修築竣工奉祝大祭という三つの大祭の後にかくのごとき見解を述べられています。『今日此の頃が戦前戦後世代交代の節目であり、果たして此のやうな大きな神社が正しく伝統を守りつゝ、維持経営していけるかどうか問題であり、祝典を芽出度し、芽出度しと許りは言つて居られず、今日が当神社苦難の門出である。』(原文ママ※)と。この昭和大修築にあたっては各界より実に十六億八千円以上のご奉賛があったとの事でございます。それにもかかわらず松平宮司は「苦難の門出である」。そのよう



節分祭



鳳山紅毛港保安堂 幟奉納



FC 琉球 OKINAWA 必勝祈願祭



正月助勤者 安全祈願祭



琉球風車 エイサー奉納演舞

の護持を行えるか、御祭神の思いを未来永劫・子々孫々に至るまで残していけるのかを常々考えなければならぬ。そのように決意をする次第であります。さて、このような話ばかり書いていますと、当社の安泰は難しいと考える方もいるかと思えますので、最後に私が昨年経験した神社護持に関する面白い話を書きたいと存じます。

昨年令和六年は元寇（文永の役）より七百五十年の節目の年でした。この時に対馬において僅か八十騎で元軍一千人に立ち向かわれた将がいます。名は宗右馬允（そうごうまのじょう）助國公。公は後世において佐須の軍神（いさごのみ）と称えられる活躍をするも最後は儂くも討ち死にされ対馬も元軍の手に落ちました。しかれども住人は郷土を守ろうと獅子奮迅の戦をされた公や戦歿者の遺徳を忘れず戦の後に祠を建立。その後宗家の命により祠は師大明神（いんたいめいじん）となり、明治の御代になりては小茂田浜神社と名を変え今に続いています。この小茂田浜神社で執り行われた元寇七百五十年祭では二日間でのべ二千五百人の方が足を運ばれたとの事です。神社が鎮座する小茂田や小茂田浜地区の人口が二百人ほどですのでその盛況さがうかがい知れます。私は残念ながら祭典当日には対馬に渡れませんでした。後日対馬を訪れた際にその盛況

ぶりを地元の方から伺うことが出来ました。その折に小茂田浜神社の周囲に点在する助國公の首塚など計四か所の塚を拝しましたが、その全てにお供え物がされていきましたのを見て地元の方の崇敬の念に感銘を受けました。顧みるに沖縄も対馬も規模の差こそあれ同じ地上戦が繰り広げられた地でございます。対馬の方が七百五十年前の元寇で郷土防衛の大義に殉じられた御祭神を思う気持ちも、沖縄の人が八十年前の沖縄戦、或いは日清日露戦争以来の国難に殉ぜられた御祭神を思う気持ちも根は同じものであるはずで。であればこそ、そこに一縷の光明を見出す事が出来ます。しかしながらその光明は漫然と何もしなければいつかは消えてなくなる事でしょう。この光明を確固たるものとし次の世代に、その次の世代に幾久しくも伝えていくためには、節目節目ごとに浮かれているばかりではなく常に「今日は苦難の門出である」と思い日々過ごすべきであると感じた次第です。御遺族・御崇敬の皆様におかれましては、この細かい光明を護る為何卒旧に倍しましてお力添え頂きますようお願い申し上げます。

文責 権楠宜 関口 幹久

※社報靖國 平成二年 十二月号より

ルビは引用者による

社務 日誌抄

令和6年4月～
令和7年3月

4月

3日 台湾花蓮地震にともなう津波警報が発令。参拝者30名程が社務所に避難
10日 神道政治連盟奈良県本部
正式参拝
10日 大和の塔慰霊祭 野呂権禰宜奉仕
「井上和彦氏同行 激戦の離島をめぐる」
座經ツアーズ御一行 自由参拝
12日 ヒストリートラベル 正式参拝
13日 沖繩戦跡慰霊行脚 天台宗延暦寺
僧侶・信徒御一行 自由参拝
22日 第六十六回春季例大祭宵宮祭
23日 第六十六回春季例大祭
23日 「あゝ、特攻」勇士之像慰霊祭
29日 昭和祭

5月

3日 神道政治連盟沖繩県本部主催憲法
シンポジウム 前原権禰宜奉仕
7日 県立具志川高等学校 有志職員
正式参拝
12日 天久宮例祭 宮司参列
15日 沖繩祖国復帰記念祭
17日 波上宮例祭 宮司参列
19日 参議院議員 有村治子様
正式参拝

6月

29日 靖國神社大塚海夫宮司
就任挨拶会 宮司出席
31日 令和六年度第一回責任役員会
3日 松坂市議会議員 森はるか様
正式参拝
8日 久留米予科土官学校第十一期海上挺身
鎮魂碑慰霊祭 宮司・野呂権禰宜奉仕
9日 小禄地域振興会良縁祈願祭
(神社コン)
13日 第五十四回旧海軍司令部壕慰霊祭
事務局長参列
16日 第八回阿含宗世界平和祈念慰霊祭
宮司・関口権禰宜奉仕
18日 レキオウイング総会 宮司出席
20日 音更神社 宮司 佐々木敬様
自由参拝
22日 天皇皇后両陛下英吉利国
御渡航行幸啓安泰祈願祭
22日 勇魂の碑 第三十二軍 慰霊祭
22日 宮司奉仕
23日 沖繩戦全戦歿者慰霊祭
23日 殉国沖繩学徒顕彰七十九年祭
30日 宮司・前原権禰宜奉仕
30日 天皇皇后両陛下英吉利国
御渡航還幸啓奉告祭
30日 夏越の厄除け祈願祭 大祓式

7月

7日 華道家元池坊沖繩支部 正式参拝
7日 菊池神社 禰宜 前田澄輝様
自由参拝
13日 茶道裏千家淡交会沖繩支部
正式参拝
24日 しづたまの碑慰霊祭 宮司奉仕

8月

3日 按司根津栄神社
宮司 市末大幸様他 自由参拝
8日 第十七回総代会
10日 大東亜戦争英霊奉慰顕彰祭
宮司・関口権禰宜奉仕
15日 終戦記念日みたま祭り
20日 茨城縣護國神社前宮司
佐藤昭典様 正式参拝
22日 対馬丸慰霊祭 会長参列
25日 唐松神社禰宜 物部長秀様
自由参拝
29日 神道青年九州地区研修会
関口権禰宜オンライン参加
30日 江東区議会議員 二瓶文隆様
自由参拝
31日 インドネシア共和国
グレンジングプラマ御一行 正式参拝

9月

15日 識名宮例祭 宮司参列
20日 前原権禰宜奉仕
20日 第八回「21世界平和の祈り」揮毫
奉納奉告祭 小禄高校書道部奉仕
22日 秋季皇霊祭選拜式
27日 沖繩縣神社廳長 波上宮宮司
大山晋吉様 正式参拝

10月

3日 神宮大麻頒布始祭 宮司参列
4日 前原権禰宜奉仕
6日 沖繩縣神社廳祭式講習會 野呂権
禰宜・前原権禰宜・宮崎神職参加
6日 表千家同門会沖繩県支部
7日 正式参拝
7日 牛窓神社 宮司 岡崎義弘様
正式参拝
13日 華道家元池坊沖繩支部 正式参拝

11月

13日 日本協議会・日本青年協議会第三十六回「日本
の誇り」歴史体験セミナー 奉告祭宮司奉仕
17日 神嘗祭選拜式
17日 千葉県遺族会 正式参拝
17日 波上宮秋大祭 宮司参列
17日 普天満宮例大祭 宮司参列
18日 前原権禰宜奉仕
18日 「未来へつむぐ」沖繩県実行委員会
つむぎJAPAN 正式参拝
19日 浮島神社例大祭 宮司参列
20日 修養団捧誠会神石五十年祭
宮司・関口権禰宜奉仕
22日 第六十六回秋季例大祭宵宮祭
23日 第六十六回秋季例大祭
25日 英霊にこたえる会 第五ブロック会議
事務局長・友奇録事参加 26日
25日 東京都遺族連合会 自由参拝
27日 安里八幡宮例祭 事務局長参列
30日 牧口八幡社 宮司 小野日隆様
自由参拝
3日 明治祭選拜式
3日 前田高地平和の碑慰霊祭
宮司奉仕
4日 因伯の塔慰霊祭 宮司奉仕
5日 山口県遺族連盟 正式参拝
5日 静霊奉賛会 正式参拝
6日 静岡の塔慰霊祭 宮司参列
6日 防長英霊の塔慰霊祭 宮司参列
8日 岡山県遺族連盟 正式参拝
8日 沖繩「甲斐の塔」慰霊巡拝団
正式参拝
9日 住吉神社例祭 宮司奉仕
10日 世持神社例祭 宮司参列
10日 長崎県連合遺族会 正式参拝
10日 長崎の塔追悼式 宮司参列
12日 愛知県遺族連合会 自由参拝
12日 栃木県遺族連合会 自由参拝

13日	群馬県遺族の会 正式参拝
13日	佐賀県遺族会 正式参拝
14日	ふくしまの塔慰霊祭 宮司奉仕
14日	群馬之塔慰霊祭 事務局長参列
14日	福島県遺族会 正式参拝
14日	広島県遺族会 正式参拝
14日	岐阜県遺族会 正式参拝
16日	奈良県遺族会 正式参拝
17日	JYMA日本青年遺骨収集団 正式参拝
17日	沖縄県煎茶道協会 正式参拝
17日	ひむかしの塔追悼式宮崎県参列団 正式参拝
17日	高知県遺族会 正式参拝
17日	新潟の塔奉賛会 正式参拝
18日	ひむかしの塔慰霊祭
18日	事務局長参列
18日	土佐の塔慰霊祭 宮司奉仕
19日	茨城県遺族連合会 正式参拝
21日	兵庫県遺族会 正式参拝
23日	新嘗祭
23日	徳島県遺族会 正式参拝
24日	埼玉県遺族連合会 正式参拝
25日	神奈川県遺族会 正式参拝
26日	小禄地域振興会の集い 宮司出席
27日	宮崎神宮職員旅行(一班) 正式参拝

12月

4日	宮崎神宮職員旅行(二班) 正式参拝
10日	神道政治連盟京都府本部 自由参拝
16日	九州地区護国神社宮司會 宮司出席 18日
18日	消防訓練
26日	神符守札清祓並びに助勤者安全祈願祭
31日	大祓式・除夜祭

1日	歳旦祭
3日	元始祭
4日	琉球風車エイサー奉納演舞
5日	那覇青年会議所 餅つき奉仕
8日	岩手県遺族連合会 正式参拝
10日	開南小学校 自由参拝
15日	神符守札焼納祭
16日	臺灣 鳳山紅毛港保安堂 正式参拝 幟奉納
18日	全国氏子青年協議会 正式参拝
18日	航空自衛隊那覇基地太鼓部 鼓風 奉納演奏
19日	伝統文化協会清校会 正式参拝
20日	戦歿者慰霊の會 櫻街道 正式参拝
22日	能楽小鼓方大倉流十六世宗家 大倉源次郎様 自由参拝
24日	熊本県遺族連合会 正式参拝
24日	小禄中学校 自由参拝
29日	長野県遺族会 沖縄「信濃の塔」慰霊巡拝団 正式参拝

2月

1日	和歌山県遺族連合会 正式参拝
2日	節分祭
3日	沖縄京都の塔奉賛会 正式参拝
3日	沖縄京都の塔奉賛会記念式典 宮司参列
4日	沖縄京都の塔慰霊祭 宮司参列
5日	大阪府遺族連合会 正式参拝
6日	なにわの塔慰霊祭
6日	前原権禰宜奉仕
6日	國學院大學陸上競技部主将 上原琉翔様 正式参拝
6日	FC琉球OKINAWA 必勝祈願祭

7日	沖縄県神道青年会 禊・北方領土返還祈願祭 関口権禰宜参加
7日	靖国神社崇敬奉賛会 正式参拝
8日	江戸千家不白会沖縄支部
8日	那覇市文化協会茶道部 正式参拝
8日	日本和裁士会沖縄県支部 針祭
9日	県立具志川高等学校 有志職員 正式参拝
11日	紀元祭
17日	祈年祭
17日	福井縣神社廳福井支部 正式参拝
18日	神道政治連盟広島県本部 正式参拝
18日	JYMA日本青年遺骨収集団 正式参拝
19日	広島県青年神職会 正式参拝
20日	全國護国神社會青年神職時局対策研修会 野呂権禰宜参加 21日
20日	湊川神社 松井英二権禰宜 自由参拝
20日	神道政治連盟大阪府本部 正式参拝
20日	神道政治連盟大阪府本部主催第十三回沖縄なにわの塔慰霊祭 宮司参列
21日	全國ソロモン会沖縄自主派遺隊 正式参拝
23日	天長祭
25日	山梨県神道青年会 正式参拝
25日	九州地区護国神社會職員研修会 前原権禰宜参加 26日
26日	沖縄甲斐の塔慰霊祭 宮司参列
28日	SYDボランティア友の会 正式参拝
1日	SYDボランティア友の会 遺骨収集 前原権禰宜参加

3月

1日	SYDボランティア友の会 遺骨収集 前原権禰宜参加
----	---------------------------

辞令

2日	茶道裏千家淡交会沖縄支部 正式参拝
3日	SYDボランティア友の会慰霊祭
3日	西谷禰宜・前原権禰宜奉仕 全國護国神社會宮司會 宮司出席
3日	宮城県神道青年協議会 正式参拝
8日	神道政治連盟 終戦八十年全國戦歿者慰霊祭 宮司・前原・関口両権禰宜奉仕
11日	第十一回社殿造営委員会 表千家同門会沖縄県支部 正式参拝
16日	令和六年度第二回責任役員会 春季皇靈祭遥拝式
20日	小禄地域振興会良縁祈願祭 (神社コン)

お詫び

うむい第三十一号十一頁奉納者御芳名において、お名前の誤記がございました。群馬県富岡市桜井学様、大阪府茨城市仲本幸様とありますが、正確には群馬県富岡市桜井守様、大阪府茨城市中本幸様でございます。この場にてお詫び申し上げます。

権禰宜に任ずる
令和六年四月一日

野呂 克吏

権禰宜に任ずる
令和七年四月一日

宮崎 元治

お詫び

うむい第三十一号十一頁奉納者御芳名において、お名前の誤記がございました。群馬県富岡市桜井学様、大阪府茨城市仲本幸様とありますが、正確には群馬県富岡市桜井守様、大阪府茨城市中本幸様でございます。この場にてお詫び申し上げます。

奉納者ご芳名

代表役員比島良雄・監事嶋田玲子・久保田照子チャームスクール・総代表大城竹明・横濱市(関口)商店・恩精村連合会(株)カルティベート・英霊にこたえる会(沖縄県本部・沖縄ツーリスト(株)(株)原組・大八産業・(株)ルート66・(株)ランク・オロク商会(株)(株)サン・エージェンシー・RBCラジオ・NPO法人琉球GAI A・さかえ労務管理事務所・大晋建設(株)(株)かねよし・(株)新寢宅・(沖)セレモニー社・(株)めいわ総建代表取締役山川和明・ユートピアハウジング(株)(株)南風原はなぞの保育園・(株)東洋設備・豊見城地区交還安全協会・(株)おきさん・三栄工業(株)(株)九徳ガス産業・電気興業(株)沖縄営業所前原良一まち子・(株)西記・(株)リフォームの図書館・福井康夫・責任役員照屋苗子・首里連族会会長照屋苗子・オリオンホテル那覇・(株)南都・(株)沖縄ボイラエンジニアリング・(株)古波蔵組・アスク沖縄(株)(株)剛建設社・司法書士法人ロアック・(株)新長宜土木・(株)南西産業・Okina wa Office(株)(株)ビジネスランド・(株)国際ビル産業・(株)阿部・ヤシマ工業(株)・ヤシマ工業(安全衛生協力会)・(社)沖縄海友会・小樽地域振興会(株)沖縄ボシンプ・(株)浜冷機工業(株)しげ組・(株)シンテック・(株)前田産業ホテルズ・(株)沖縄式典プランニング・国幸興發(株)・aushopp重川・(株)サンライト・(株)三晴・(株)リュウロード・(株)ヒロハルファーム・(株)匠宮・沖縄ガス(株)・(株)ASAKA三協電気工事(株)・オキコ(株)(株)すまいの大進・(社)表千家同門会・ユーアイホー

(株)HOPE、(株)フラッグプロデュース
 (二財)沖縄県連族連合会、本部町連族会
 八重山連族会、真和志連族会、(株)豊都建設、ラーメン工房、麵太、孝松電設、REIN、リエイ設備工業、(同)ガイアテック、(株)沖縄銀行、(株)おきなわフィナンシャルグループ、次美華政愛鳳、PocketSibib2、トーマ産業、(株)地酒とまごころ料理つくも、小椋オートサービス、(株)丸和産業、嘉互業、税理士法人リモト、那覇東急REIホタル、(株)ムーブプランニング、平川宗秋、(株)蒼尊社、閃光社代表者長田益博、オーシロ電化オーシロマンゴー園、(株)富士開発、(株)ホテルグランビュ、三創、(株)HighG、産経新聞社那覇支局、L・D・K、みちる水産、豊見城市議会議員宜保安幸、(株)良組、(株)大組、園和設備工業、医療法人玉福聖と海とククリニク、街クリン、街クリン建設、(株)久田緑化造園、大鏡建設、(株)エヌケイプランニング、(株)澤庵運輸、(株)コモドハウス、西本監司、高良幸栄高良幸司高良勇介高良陽平、琉球ゴーレックス、我喜屋宗浩彩花宗裕、石川恵三直美、Mr.JUNBOO、前原産業、極東警備センター、(株)Gnext、ABC沖縄放送宣伝社、沖縄県復興委員会、(株)国神社奉志会友利日出夫、(株)国神社奉志会野底友子、(株)国神社奉志会垣花力男、(株)国神社奉志会米須清二、(株)国神社奉志会鶴田幸恵、(株)国神社奉志会上間清浩、(株)国神社奉志会米須清治、(株)国神社奉志会最数吉雄、(株)国神社奉志会石原昌昭、(株)国神社奉志会上原直也、(株)国神社奉志会島袋林正、(株)国神社奉志会新本健、(株)国神社奉志会宇榮原美智代、(株)国神社奉志会川満定行、(株)国神社奉志会最数祐樹、(株)国神社奉志会仲西隆

奉納者御芳名

令和六年四月(令和七年三月)
(社務日誌掲載以外順不同・敬称略)

◇ 永代慰霊命日祭新規申込者

沖縄県沖縄市 大舛 邦彦

◇ 永代慰霊命日祭御供

神奈川県逗子市 一戸 弥生

愛知県一宮市 不破 良夫

沖縄県宜野湾市 當山 盛子

神奈川県鎌倉市 関 政子

北海道札幌市 櫻井 朋子

沖縄県那覇市 新崎 英美

三重県志摩市 杉木 茂樹

千葉県八街市 黒木 陽一郎

沖縄県沖縄市 大槻 邦彦

岐阜県岐阜市 江崎 明美

広島県大竹市 松本 春高

埼玉県比企郡 福岡 英男

北海道函館市 伊藤 和子

岩手県花巻市 瀬川 豊子

愛知県名古屋 知念 松春

群馬県吾妻郡 関崎 勝治

沖縄県石垣市 瀬名 波長宏

徳島県阿南市 幸田 純子

福島県喜多方市 田中 昭二

北海道札幌市 北村 孝子

愛知県豊橋市 小野 よし子

岐阜県大津市 清水 千鶴子

青森県弘前市 三浦 慶子

佐賀県杵島郡 佐賀 忠雄

千葉県市川市 松永 修己

沖縄県那覇市 新垣 信正

茨城県取手市 大塚 幸男

愛知県一宮市 後藤 義修

宮城県富谷市 菅原 義則

沖縄県那覇市 与那嶺 朝博

京都府宇治市 上田 明子

大阪府池田市 島村 美哉子

北海道雨竜郡 木村 寿文

北海道函館市 石川 小松市

北海道亀田郡 千葉 崇取市

群馬県甘楽郡 群馬 崇取市

熊本県熊本市 熊本 崇取市

滋賀県東近江市 滋賀 崇取市

愛知県海部郡 愛知 崇取市

埼玉県本庄市 埼玉 崇取市

群馬県高崎市 群馬 崇取市

群馬県高崎市 群馬 崇取市

群馬県高崎市 群馬 崇取市

群馬県高崎市 群馬 崇取市

群馬県高崎市 群馬 崇取市

群馬県高崎市 群馬 崇取市

群馬県高崎市 群馬 崇取市

群馬県高崎市 群馬 崇取市

群馬県高崎市 群馬 崇取市

群馬県高崎市 群馬 崇取市

群馬県高崎市 群馬 崇取市

群馬県高崎市 群馬 崇取市

群馬県高崎市 群馬 崇取市

群馬県高崎市 群馬 崇取市

群馬県高崎市 群馬 崇取市

群馬県高崎市 群馬 崇取市

群馬県高崎市 群馬 崇取市

群馬県高崎市 群馬 崇取市

群馬県高崎市 群馬 崇取市

群馬県高崎市 群馬 崇取市

群馬県高崎市 群馬 崇取市

群馬県高崎市 群馬 崇取市

群馬県高崎市 群馬 崇取市

群馬県高崎市 群馬 崇取市

群馬県高崎市 群馬 崇取市

対馬 長敏

南出 修宏

岩田 軍一

榊原 潔

中村 公美

松尾 誠

松浦 友一

高橋 貴一

江積 栄一

江積 早智子

江積 節子

櫻井 勝子

神里 スミ子

牧香 里子

藤島 由紀子

中村 和子

當山 盛子

沼田 富美枝

齊藤 亮子

神里 スミ子

渡辺 三男

大西 昭範

与儀 シゲ子

林 和子

大竹 口重義

三浦 慶子

茶屋 廣喜

大嶺 直子

仲村 渠良雄

中島 百合枝

川島 義美

西田 喜一

静岡縣護國神社 宮司 芦原 久雄

静岡縣浜松市 石川 至海

岡山県 中本 幸

岡山県 佐賀護國神社

岐阜県岐阜市 玉田 充

岐阜県岐阜市 宮崎護國神社

宮崎県護國神社 宮司 本部 雅裕

英霊にこたえる会 宮崎県本部 齋藤 伸雄

新潟縣護國神社 宮司 福井 康夫

兵庫県神戸市 石浦 智彦

和歌山県和歌山市 武田 則子

京都府京都市 金城 則子

沖縄県宮古島市 長野縣神社 藤島 陸勇

和歌山県橋本市 遺族連合会 龜江 正鎮

和歌山県伊都郡 遺族連合会 田宮 昌子

京都府山崎町 遺族連合会 宮川 貴文

沖縄県嘉手納町 宮司 桑原 宏明

大阪府護國神社 宮司 馬來 田善敬

大阪府 足羽神社 宮司 渡部 公磨

沖縄県うるま市 宮司 寺井 種治

福岡縣護國神社 宮司 小佐野 正史

福岡縣護國神社 宮司 小野 日隆

牧口八幡社 宮司 邊春 成行

広島県広島市 上原 一則

沖縄県那覇市 上原 一則

(株)沖縄ユニホーム 富樫 直哉

東京都北区 岡野 矩子

千葉県船橋市 高嶺 嘉代子

沖縄県浦添市 高嶺 嘉代子

沖縄県浦添市 高嶺 嘉代子

沖縄県浦添市 高嶺 嘉代子

沖縄県浦添市 高嶺 嘉代子

岐阜県岐阜市 箕浦 義之

大阪府池田市 広中 房男

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

修養団奉誠会 青木 正孝

◇ 御供物

神饌 正御饗・樽酒

正面幕・樽酒

正面幕・樽酒

樽酒・米

鶏卵

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

オリオンビール(株)

ジーマック(株)

(株)コーニッシュ

沖縄鶏卵販売(株)

蘭フラワー

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

生花

ご祭神の 遺籍調査について

現在、各地の護国神社にて、ご遺族・崇敬者の方の参拝が減少しているため危機に瀕しています。護国神社中最多の十七万七千九百十三柱がお祀りされている当社においても例外ではなく、例えば春秋の例大祭において昭和四十年代では実に、七、六千人の参列がありましたが、現在は百五十名を切るような状況となっております。

先の大戦で県民の四人に二人が散華された沖縄県に住む多くの人が遺族と言っても過言ではありません。当社では随時御霊との繋がりやを証明する祭神調査書の発行や、ご命日の日に御霊を慰霊安鎮する永代慰霊命日祭のお申込みを承っております。御霊が最も喜びになるのは、ご子孫の方のお顔を見る事、又ご子孫の方が自分を忘れず、思い出してくれるという事であるご拝察申し上げますので、この機会に是非お問合せ下さい。

※御来社される日が分かりましたら、事前にお電話頂けると幸いです。

※ご希望に応じ、軍歴証明書の取り方や、厚生労働省が実施している、遺骨収集事業にて御帰国されました遺骨のDNA鑑定のご案内、その他、可能な範囲内で関連団体（戦友会・遺族会・遺骨収集団体・慰霊団体）のご紹介やお取次ぎを致します。

詳しくは当社までご連絡ください。

【調査対象のご祭神】

当社に合祀されている全ての祭神
十七万七千九百十三柱

県内出身の対象

屋比久孟治命をはじめ、十二万九百八十柱
※日清戦争・大東亜戦争にて散華された軍人・軍属の方。沖縄戦において散華された民間人の方。

県外出身の対象

牛島満命をはじめ、六万六千九百三十三柱
※沖縄戦において散華された県外出身の陸海軍の軍人、軍属の方。
※沖縄方面に出撃された特攻隊員の方や、天弓作戦参加者、義烈空挺隊員等も対象となります。

【ご依頼主様の条件】

ご祭神のご家族様

※ご家族様であれば直接の血縁関係は問いません。

※プライバシー保護の観点からご家族様以外の調査（研究目的を含む）についてはお受けできません。

【必ずご持参いただくもの】

・ご依頼主様の身分証明書
（保険証・運転免許証・マイナンバーカード等）

【ご持参いただけるとよいもの】

※必須ではありません。

・軍歴証明書
・ご依頼主様とご祭神の繋がりがわかるもの（戸籍謄本等）
・ご祭神の本籍や生年月日がわかるもの
・その他、ご祭神に関係する資料

書籍紹介



『道産子たちの沖縄戦記 あゝ沖縄』

「1人の死は悲劇だが百万人の死は統計である」この言葉を最初に発言した人物は定かではありませんが、中々に核心を突いた言葉であると思います。先の大戦から80年の時がたち個々人の勲や思いは風化しつつあります。そうすると今後残るのは無味乾燥な年表や数字のみでしょう。しかしそれで良いのでしょうか？本書は北海道出身で元陸軍兵長であった清水幸一氏が北海タイムス社の企画で昭和39年の4月から12月にかけて延べ267回に渡って連載された「あゝ沖縄―七師団戦記」を再録した書籍です。この書の特徴として大変多くの人名が登場することが挙げられます。戦後19年の時代です。まだまだ思い出したくない事も多くあったでしょう。しかしながら、清水氏も多くの証言者の方も、亡き戦友の為に出来る事は何かと考えた時、それは、その事績・勲を、真の戦場の様子一つでも多く後世に伝え事である。そのような思いで手記を出し取材を受け、それを丹念に文字に起こされたのだと拝察いたします。歴史は決して統計ではない、一人一人の人間の物語の積み重ねである。そう感じた一冊でした。



『「特攻」の聲 隊員と遺族の八十年』

“会った事のない隊員の夢を見るほどになりながら考え続け、気づいたのは、全く何も理解しておらず、特攻隊を美化している自分の姿であった。自分を恥じた私は、『命を懸ける』という言葉が安易に口にできなくなった。”（本書273頁より）

本書は大きく分けて「出撃した者たち」「見送った者たち」「大義に生きた者たち」

の三章で構成されており、遺族、元特攻隊員、戦友の立場から見た特攻だけでなく、楠公精神から論ずる特攻、特攻に関する国外の評価など多くの立場・視点から見た特攻が丹念に描かれています。一例をあげますと、戦後も特攻隊員であったことを隠し続けた元ト号機（四式重爆撃機飛龍を改造した特攻機）搭乗員の証言、三十三回忌が終わりようやく国に捧げた息子が自分の元に帰ってきたと号泣する母の話、戦後婚約者が散華した海に散骨を希望し婚約者が眠る海にかえっていった女性の話、終戦後軍神から一転して国賊といわれたご遺族の話など、どれも一文字たりとも読み落とすことの出来ない話ばかりです。

本書の著者である宮本雅史氏は30年以上に渡り特攻隊に関する取材を続けられ、特攻隊を慰霊顕彰し続けることが三代、四世代先の日本の将来につながるという思いで講演会も精力的に行っています。講演ご希望の方は是非ご連絡下さい。

